

令和3年度第3回 市民活動・ボランティアサポートセンター運営会議 会議録

日 時 令和4年2月17日(木) 14:00~15:30

場 所 姫路市市民会館 5階 第11会議室

出席者 委員7名 事務局5名

(委員) 藤本 真里 座長 米谷 啓和 副座長 井上 清美 委員
安積 英孝 委員 川石 雅代 委員 前川 裕司 委員
岩田 和代 委員

(事務局) 市民参画部 平石部長、市民活動推進課 門口課長
市民活動・ボランティアサポートセンター 佃所長 岸本主任 得平主任

次 第

1 開会

2 議 題

報告事項

- 1 ボランティアハンドブックについて
- 2 第9回ひめじおんまつりについて

議 事

- 3 令和3年度ひめじおん講座の開催実績及び令和4年度の講座の内容について

3 閉会

会議の進行記録（要点記載）

座 長： 報告事項1「ボランティアハンドブックについて」を事務局から説明いただきたい。

事務局： 資料1 報告事項1のボランティアハンドブックについて
説明

座 長： ご質問やご意見があれば発言いただきたい。

構成員： 今後の増刷や改訂について、本運営会議やセンターの考え方としてどうしていくかをディスカッションしたい。

構成員： コラムは男性ばかりなので、一人だけでも女性を入れてほしかった。

事務局： 最初のコラムの作者は女性だ。

座 長： ケース紹介は男女が混ざっていると思う。また、こういう刊行物は長期間置いておくのではなく、短期間に配布して次々と増刷していく方が良い。改訂についてはどうか。

事務局： 当初の少ない予算でここまでのリニューアルは難しかったが、印刷業者にもかなり協力してもらい、こちらでもデザインを考えいろいろ意見を出し、コストを抑えて発行した経緯がある。次年度以降、軽微な改訂ならば低コストで印刷が可能だが、大幅なリニューアルとなると予算の費目も違うので、別の形で予算取りしていかなければならない。とりあえず来年度は、直すところがあれば軽微な改訂で予算を抑えて増刷したい。

座 長： 一年以内の改訂ということだけでなく、数年後の改訂を考えてはということだと思いが、その時は女性のコラムを増やすことも検討してはどうか。

構成員： 漫画は縦読みのレイアウトで少し読みにくいので、次回は横読みにするか、番号を入れるとかはどうか。

構成員： 漫画が横書きになると冊子自体は左開きが自然なので、それは改善を検討しても良いかと思う。また、反響やフィードバックなどをなんらかの形で改訂の参考にしてはどうか。配布の時に、アンケート形式にするとか次の改訂に向けたアイデ

アを聞くのも良いと思う。

構成員： 発行部数が少ないのに20部希望したが、大丈夫か。

事務局： コラムを寄稿していただいた方に50部の希望があり送付する。というのも、その団体に活動している人は初心者が多いし、関係する店舗などに配架していただけるということ。普段、私たちが配架するのは同じような公共施設ばかりなので、いつもと違う場所に配架していただけるのは大変ありがたい。

構成員： その団体の関係者が配架してくれると、広がっていくので良いと思う。

座長： 増刷に意味が出てくる。運営会議の歴代の公募委員に送ってはどうか。喜ばれるし効果的に配布してくれるのでは。また、まつりで関係した学校などボランティア初心者が目に触れるような所に5冊10冊レベルで配ると良いのではないか。部数が少ないので、施設に送るよりポイントを絞って送る方が効果的だ。

事務局： 若い方がくるようなイベントにも配架依頼したい。

座長： 送付時、モニタリングで意見を聞けるようなアンケートを添えてはどうか。もしくは、メールで返信できるようなフォームを作るのも良い。

構成員： ボランティア初心者に見せたところ、ボランティアのぼんやりしたイメージが具体的にわかるようになったという意見であった。漫画が入るなど大変良くなったと思う。ひめじおんまつりパネル展でも配架して、多数の方に興味をもってもらってはどうか。

座長： パネル展で漫画の部分だけ拡大して貼り付けしても良い。

座長： それでは次に報告事項2「第9回ひめじおんまつりについて」、事務局から説明をお願いしたい。

事務局： 資料2 報告事項2-1、2-2の第9回ひめじおんまつりについて
説明

座長： 実行委員会メンバーの岩田委員から何かあればご意見をいただきたい。

構成員： 実行委員会を9回も重ねて煮詰めてきたが、中止になりとても残念だ。イベントのタイトルとして第9回を入れるのはという意見もあったが、ここまで来たら第9回としてパネル展を開催し、次の第10回は通常開催しようということに決まった。市民ロビーは昨年も使用したので、勝手にわかり安心して取り組める。事務局には大変迷惑をかけたし、苦勞されたと思うが、おかげで昨年度と同じように開催できるのではと思っている。

座長： 昨年度はパネル展を前提に準備したが、今年度は途中で内容変更ということで大変だったと思う。昨年と同様にフォーマットを決めて団体から募集したのか、それとも通常開催用に準備していたものを展示するのか。

事務局： 動画については、募集したうえで、昨年の動画も再利用して新たな動画を作っている。ポスターは、毎年のもつり開催時にも募集しているので、今年も同様に募集していたものを使う。

構成員： 資料配架はあるのか。参加団体も配架できるか。

事務局： 通路ということもあり、資料はセンターのハンドブックなどを置く程度のスペースしかない。

構成員： 昨年は準備期間があったので等身大パネルなども作ったが、今回は急な変更なので、準備は全くできてない状況だ。ポスターなどあるものを使い、場所も少し狭くなったのでなんとか補えるのではと思っている。3月2日にパネル展の準備をすることになっているが、事務局には負担をかけ、実行委員が事務局を手伝う形になっており、申し訳ないと思う。

構成員： 例えば動画を **YouTube** にアップして、誰でも見られるようにすれば会場に行かなくても見ることができ、幅広く発信できるのではないか。**Facebook** でも **Instagram** でも動画投稿もできる。

座長： 動画を公開するとなると、各団体の許可がいるのではないか。

構成員： 依頼の段階で、どういう依頼をしているかによる。

事務局： もともとは市民ロビーでの掲示を目的に依頼している。技術的な面も含めてできるかどうか検討が必要だ。

構成員： 市民ロビーで動画を流すのも不特定多数が見るという前提であり、メディアが変わるだけと思うが。団体に許可をとれば大丈夫ではないか。

座長： 基本的に提供者は許可するだろうが、許可を取るのもなかなか手間がかかるとは思う。

構成員： ここまで手間をかけているので、活用しないともったいないと思う。

構成員： 私の団体は、手作り絵本など子供向けの活動で子供も映っている。撮影時にひめじおんまつりでの上映ということで断りは入れたが、YouTubeだと誰が見ているかわからないということもあり、動画が出るのは躊躇する。

座長： 講演会などでも、テレビ放映となると全員に画像の許可をとらないといけないが、拒否される方もいる。別の方法として、インスタなどで動画を紹介できるという案内をすることはできるのではないか。また、市役所職員にも見ていただきたいが、庁内向けのインフォメーションはできないか。

事務局： 全職員向けの庁内用のイントラネットがあるので、そこで告知したい。

座長： 議題1「令和3年度ひめじおん講座の開催実績及び令和4年度の講座の内容について」を事務局から説明いただきたい。

事務局： 資料3「令和3年度ひめじおん講座の開催実績及び令和4年度の講座の内容について」
説明

座長： 以前、会議で講座について事前に検討できたらというご意見を受けて、このテーマが出たのだと思う。ご意見、ご質問があればどうぞ。

構成員： LINE と Instagram の講座に参加した方から、大変楽しくて良かったと聞いたので、また次年度も開催してはどうか。

構成員： 私も参加したが、大学生の講師が気さくに教えてくれたので、わからなければ講師以外にも参加者誰にでも聞けるという和気あいあいとした雰囲気で大変楽しかった。

座長： 三田市で兵庫県立大学の学生が地域に入って活動する場があった。まちづくり協

議会の幹部の方が SNS の操作に困っていると、大学生が簡単にやって見せて幹部の方が感動され、また、学生もこんなことで喜んでもらえるとはという交流があった。いろいろな意味で有意義なので、SNS を学生が教えるという内容の講座は続けてほしい。

事務局： 大学生の講師というのは未定だが、特に高齢者の方から問い合わせも多いので SNS 講座や、ボランティア団体が活動の様子を紹介できるように YouTube の使い方講座などは検討している。

座 長： 昨年度と同じ大学生講師でなくても、その方の知り合いや同じ大学の後輩などで繋がれば良いと思う。

構成員： コロナ禍で閉塞感がある中で、セルフコーチングによって自身の活力を保つという講座も良いのではないか。また、私の大学ではフードロスに関心を持つ学生が多く、ボランティア活動にも積極的に参加し、いろいろな世代との交流を持っていると聞く。そういった講座に私の大学からも参加できれば良いと思う。講師はどのように選んでいるのか。

事務局： 傾聴などの専門的な講座は以前から依頼している方をお願いするが、主に登録団体の方や、インターネットで探すなどしている。

座 長： いい先生をご存じであれば、紹介いただけたらセンターも助かる。

構成員： 講師探しなど積極的に事務局にも声掛けして、協力したい。

座 長： フードロスは、SDGs の切り口の一つであり、若い人が興味を持っているところでもある。

構成員： SDGs の参考情報で、姫路商工会議所が 100 周年の記念事業として 8 月 19 日、20 日に「姫路 SDGs エキスポ 2022」を開催するが、そこでは市内の企業の出展や、セミナー、講演会などがある。そういう場に参加することで姫路の動きだとか講師や人材などが見つかるかもしれない。出展料との兼ね合いもあるが、ボラサポもボランティアや市民活動というテーマで出展しても良さそうなイベントだ。

座 長： 最近、SDGs で興味深かったのが、「播磨で育てたビール」という活動だ。はりま

で育てたホップでビールを作るというコンセプトで、ビルの屋上や店舗前、耕作放棄された田畑などで、いろんな人が苗を購入して育てる。佐用町では、このビールがふるさと納税の返礼品にもなっている。事務局であるキタイ設計の平櫛氏は、会社の中のSDGs担当で、はりまで育てたビールや、コットンを育てて防災グッズを作るなど、ほかにもいろいろと手がけて活躍されている。何もないところからSDGsの仕事を生み出され、いろいろなネットワークもあり、パーソナリティも素晴らしい。太子町からは講演会のオファーもあったようだが、姫路市とのかわりがないと聞いたので、事例紹介なども含めて講座をしてもらおうと面白いと思う。

構成員： 昨年、その活動に参加してホップを育てたが、やはり自分たちが育てたホップでビールができると嬉しいものだ。また、平櫛氏は防災士の資格も持っておられる。

座長： もともと土木で防災関係の仕事をしていたが、防災意識がなかなか多くの人々に伝わらないというジレンマから、今のような展開になったと聞いている。元姫路女学院の学長であった山田先生もSDGsのはじめの一歩としては大変良いと思う。他にも、思い当たる方があれば、ぜひセンターに紹介してほしい。

構成員： 今、コロナの閉塞感で気持ちが落ち込んでいるので、気分を発散して楽しめるようなスポーツの講座も入れてほしい。SDGsについては、若い人に興味を持ってもらうということで子育ての要素があるものや、ジェンダーレスについてなど、生活の中で若い人たちにSDGsを知ってもらうことも必要なのではないかと。若い人がSDGsに興味をもつことで、ボランティア活動も増えるのではないかと。

構成員： ロコモや健康体操などヘルスに関連するジャンルであれば、私の大学の中で講師を引き受けられる人材はあると思う。

座長： ロコモとは、どういう内容か。

構成員： 筋力低下防止とか転倒防止のための運動だ。そのほかに、メンタルヘルスのジャンルもある。例えば、活動している人が心身ともに健康であり、まわりの人と世代を超えてつながりを持てるようにといったことをテーマにしていく方法もあるかと思う。5回以上の講座のうち、ヘルスの分野で1つ講座を引き受けることはできるので、事務局と調整したい。

構成員： 昨年、LINEやInstagramが好評だったということだが、そのために写真の講座

というのも良いのではないか。Instagramには写真は必須なので、スマホでの写真の撮り方のコツやかっこいい発信の仕方などをテーマにすると参加者も多いのではないか。

座長： 本日の議題はすべて終わった。ほか、次回の会議に向けてなど何か提案があれば発言いただきたい。

構成員： 第10回ひめじおんまつりの日程は決まっているのか？

事務局： 2月の上旬を予定している。

構成員： コロナ禍で2年も通常開催できていないので、第10回のひめじおんまつりはどうというテーマでやればよいかを議論していただければよいと思う。

座長： 課題に思うことは何かあるか。

構成員： 代表になられる方によって思いもいろいろある。今後、違う形に展開していくため、これが次にこういう展開になったんだという方向性が見えるものになれば一番いいと思う。

構成員： 第10回はプラスαがあるとしても、基本的には今の展示と舞台が続くと思う。この2つがあるので場所選びが難しい。展示だけなら駅前広場でも良いが舞台ができないし、舞台を中心に考えると、場所が限られる。そういうジレンマを感じながら運営している。

構成員： 両方できるところだとアクリエひめじが良いのではないか。

構成員： それはベストだが、予算的に無理と聞いている。芝居などで手を挙げている団体もあると聞いているので、第10回はそんな形かと思っている。ただ、第10回までの積み重ねで、その次がどう飛躍していくかというのは大事なことだと思う。

構成員： 以前から言っているが、ひめじおんまつりは市民団体の交流のまつりなのか、展示PRの場なのかどっちつかずだ。PRといっても関係者やまつりを知っている限られた人しか来場しないし、交流といいつつ、自分のブースに張り付きで他のブースや舞台に行けない。後で懇親会があっても、交流とは言い難く自分の団体のことしか話せない。もう1歩踏み込んだ形があるのではないかと思う。両方ともしよう

とすると難しいので、どちらかでいいということにしておいた方がこだわりなくできてありがたい。

構成員： 今年 PR だけにするとか？

構成員： PR だけなら駅前で開催することもできる。交流ということにするなら、市民会館で開催して、もっとコミュニティドームを利用して知り合うということの一つの大きなテーマにしたら、お互い情報がたくさん入る。

座長： ひめじおんまつりを始めたときは、グループ同士の交流が必要という理由だった。何度も実行委員をしてくださる方がいて、毎年、目的を明快にして手法を考えていたし、市民への発信も考えておられたように思う。当初、忙しくて交流できない、まつりはたいへんな思いをするだけだという理由で嫌がる声もあった。今一度、目的を考え直して、今の形にこだわらずやり方を変えてもいいと思う。

構成員： コロナの前後で当然やり方も変わってくると思う。私の考えだが、文化的、伝統的な祭りなど別として、みんなで集まって行うイベントの時代は終わったと思っている。以前から言っているが、「こころのまつり」のように、ひめじおんウィークとして街のあちこちで行っているという分散型にしてはどうか。それぞれやっているが大きくまとまっていて、その間交流もある、そういう形態にそろそろ移る段階ではないかと思う。みんなが集まってイベントをするとするとエネルギーがいるうえ、いつもの姿を見せられるわけでもない。期間を決めてこの時期に開催すると決めておくと、各団体もその時期を意識して何か一つ1年の集大成になることをやろうという意識も出てくる。

構成員： それは PR が大変だ。

構成員： 行政から広報ひめじなどで発信してもらおうと、関心のある人が集まる。

構成員： SNS でも発信できる。1か所で100人集める必要はなく、それぞれ20人集まったら10か所で200人という規模になるうえ、より密なコミュニケーションが取れる。

構成員： 重なる日のイベントはやめておこう等、事前に話し合っておくとよい。

座長： 一般受けを考えず、自分たちの好きなもの、こだわっているものを出すことで、

それを好きな人が来て楽しめるというのはすごくいい形だと思う。

構成員： その一環で核となる、例えば講演会などを市民会館で開催する。実行委員会の役割は、参加団体としてふさわしいかを判断する役割を担ってもらう。

構成員： 第10回の記念の講演会として、ハイブリッドでオンラインとリアルで開催し、大勢の市民が見られるようにすると良い。また、共通のバナーとして、フラッグやのぼりなどを作ることで一体感ができる。

座長： 第10回では、分散開催とかそういう方向性を見せておけばよいのではないかと提案いただいた形式となると、改めて実行委員会を立ち上げる必要があると思う。おそらく今の実行委員会で開催すると今までと同じ形態になるだろうから、この形でまつりをすると提示したうえで実行委員を募った方が良さそう。さらにいうと、参加団体の中で実行委員会を立ち上げる方がうまくいきそう。また、フラッグなどは効果的だ。団体間でお互いに同じイベントに参加していると認識できるし、一般の方も声をかけやすいだろう。以前、体験したことだが、中小の工場が多い東京都墨田区では、町全体をミュージアムのようにし、町工場の仕事を職人さんから直接見せてもらって説明を聞けるような活動をしていた（小さな博物館）。マップや参加している工場のリストがあり、開催日に行けばその説明が聞けるという手法で、誰でも気楽に立ち寄れる。とても面白いと思った。

構成員： まつりの期間中、こども食堂を開催しても良さそう。

構成員： 良い提案をいただいたが、第10回にそれをするのは難しいと思う。今後の方向性として認識したうえで、第10回は通常のまつりプラスαで開催することになりそう。

構成員： 「ひょうごん」という県のNPOのネットワークがあるが、こういうイベントも関係していくべきだと思う。今は、それぞれがバラバラで、ネットワークになっていない。「ひょうごん」自体は、ウエイトが東の方にあり、播磨地域の活動をもっと活発にしたいという課題を抱えているので、そういう意味ではお互いいい関係性が築けるのではないかとと思う。「ひょうごん」は分散型のスタイルで、年2回ほど集まっているが、集まることよりもそれぞれの拠点での活動を重視している。

座長： ひめじおんまつり自体が重要ということではなく、そういう互いの活動や交流をどうするかということが大切で、センターとしても肝だと思う。

座 長： 貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。
今日の会議はこれで終了したい。次回の会議の開催時期について、事務局から説明いただきたい。

事務局： 次回会議は、5月下旬を目処に後日日程調整したい。